桃五だより

杉並区立桃井第五小学校

https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/

№618
（12 月号）
2022.12.1

子供を知ること、子供に任せること

主幹教諭　田中　博司

映画やアニメで人気の「ベイマックス」というキャラクターがいます。傷ついた人の心と体を守るために作られたケアロボットという設定のキャラクターです。先日行われた学芸会で、３年生はこの「ベイマックス」というケアロボットをモデルにした劇を行いました。チーム３年のメンバーである私は、劇を準備するにあたり物語を見ていたところ、ベイマックスが、私たち教師が見習うことの多い存在であることに気付かされました。

ベイマックスは、心や体の調子が悪そうな相手がいると起動し、まずその相手をスキャンします。そして、相手の様子を十分つかんだ上で対処を始めます。私たち教師も、子供たちと関わる時には、まず、その子の現状を把握することから始めなければなりません。しかし、つい教えたいこと、伝えたいことが先立ってしまい、子供の話を聞くこと、思いを知ることが疎かになってしまうことがあります。

さらに、ベイマックスというケアロボットが秀逸なことは、相手の「もう大丈夫だよ。」の言葉で、自分の役割を終了し、作動を停止することです。ベイマックスのケアは相手の自己判断、自己決定を尊重して行われているということです。子供と関わるときに、大人の思いだけで支援をし続けてしまい、必要のないことまでやってしまうこともよくあることです。こうした過剰な支援は、子供たちの成長に蓋をしてしまうことにもなりかねません。

もちろん教えるべきことは教え、伝えるべきことは伝えなければなりません。でも、ベイマックスのケアが、相手をスキャンすることから始まり、「もう大丈夫だよ。」の言葉で終わるように、まずは、子供の話に耳を傾け気持ちに寄り添うこと、そして、子供の自己判断、自己決定を尊重することを、教師として大事にしていきたいと考えます。

桃五小では、１１月から、今年度２度目の対話面談を行っています。この対話面談では、朝のパワーアップタイムや休み時間などを使って、担任が子供一人一人と話す時間を作っています。子供たちとの一対一の関わりの中で、話に耳を傾け、気持ちに寄り添えるように努めています。

さて、先日の学芸会では、どの学年の子供たちも、自ら工夫しながら、自分らしい演技を披露していて、その姿に胸を打たれました。小学校の学芸会では、教師の演技指導が過ぎてしまい、やらされている感が強い劇になってしまうこともあります。しかし、本校の学芸会では、先生たちが教えることは教え、委ねるところは委ねた結果、どの学年も、子供たちの自主性が尊重され、自分たちで創り上げる劇ができたと感じています。舞台上で緊張しながらも、自信をもって自分の役を演じる子供たちから、「先生、もう大丈夫だよ。」と言う声が聞こえてくるようでした。

１２月の生活指導目標
きれいな学校にしよう

身の回りがきれいだと、気持ちよく過ごすことができます。子供たちがすすんで掃除に取り組み、隅々まできれいな桃五小にしていきたいと思います。

また、「学習しよう」と思ったときに、「文具が見当たらない」「机の回りが片付いていない」ということで学習意欲が低下してしまうことがよくあります。使った物の片付けや、持ち物の整理整頓が重要です。ご家庭でも、学習道具の確認や整頓の声掛けをよろしくお願いいたします。